

大会長挨拶



第38回日本分子生物学会年会 年会長
影山 龍一郎
 (京都大学 ウイルス研究所)



第88回日本生化学会大会 会頭
遠藤 斗志也
 (京都産業大学 総合生命科学部)

日本分子生物学会および日本生化学会は、2015年度の年次大会を第38回分子生物学会年会・第88回生化学会大会合同大会BMB2015として、12月1日～4日の4日間にわたって、神戸ポートアイランドで開催いたします。

分子生物学会と生化学会が合同で年次大会を開催するのは、BMB2010以来5年ぶりということになります。両学会はそれぞれの歴史と特徴をもって発展し、これまでも単独で数多く年会・大会を開催し、成功してきました。しかし一方で、わが国の生命科学を代表する2つの大きな学会が、今回久々に合同で年会・大会を開催することの意義は、少なくともこのように考えました。それは単に会員の経済的・時間的負担を減らすとか、短時間でより広い分野の学術情報の収集と交換ができるといった効率の問題だけではありません。2つの年会・大会の足し算ではない、BMBだからこそできる企画や構成というものがあるはずと考えました。両学会の準備委員会関係者が議論を重ね、様々なアイデアを出し合いながら準備を進め、またプログラム委員の先生がたにも短い時間の中で企画構成に関わるさまざまな作業についてご尽力いただきまして、ここに本合同大会開催に至りました。

特別講演としてTom A. Rapoport、Brigid Hogan、長田重一の各先生方にプレナリークチャーを、国内の3人の著名な先生方にパイオニアズレクチャーをお願いいたしました。ライフサイエンスのほぼすべての分野を横断して企画したシンポジウムを20テーマ、広く公募を募ったワークショップを140テーマ開催いたします。また若い方々の関心も大きい創薬シンポジウム、研究者やそれを取りまく社会との関係を考える様々なフォーラム、今回は学会員も参加しないと後悔する「市民公開講座」などを開催いたします。さらには学会の枠を越えて再び熱い議論を展開する「ガチ議論」も2年ぶりに帰ってきます。

一般演題はポスター発表に加えて口頭発表枠も設けており、879演題はポスター発表と口頭発表の両方を行っていただきます。一般口頭発表の多くは、大会4日目の昼の時間帯に行う予定です。企業主催のランチョンセミナーは大会1～3日目に開催しますので、4日目の昼は一般口頭発表のみとなります(当日の会場では軽食をご用意いたします)。また、BMBのような大きな大会では、時間内にポスター発表を十分に回りにくいということがよくあります。発表者がある場になくてもコメント等のメモを残せるように、それぞれのポスターボードに封筒を準備いたします。参加者から発表者へのフィードバック、双方向性のアナログならではのコミュニケーションにご活用ください。

ワークショップの応募数が予想以上に多かったことから会場数を大幅に増やしました結果、経費節約の面からWi-Fi設備は限定的なものにせざるをえなくなりました。皆様にはご不便をおかけすることになりますが、ご理解いただけますようお願い申し上げます。そのかわり、オフラインでも使える大会プログラムアプリをより使いやすいものへと改良充実いたしました。是非ご活用下さい。また直前まで刻一刻と変わりゆく大会の最新の情報をお届けするために、BMB2015のホームページ(<http://www.aeplan.co.jp/bmb2015/>)に加えて、Facebook(<https://www.facebook.com/bmb2015/>)も充実させております。こちらも是非ブックマークの上、ご活用をお願いいたします。

ライフサイエンスを、いやサイエンスを取りまく環境は大きく変わりつつあり、日本の基礎研究・応用研究の先行きも不透明です。このような中で学会の役割や使命も変わらねばならない状況にあります。いったい学会の年次大会に何が出来るのか、何を期待できるのか。そのことを自らに問いかけながら本大会の準備を進めてきました。少しでも答えにつながるものを見出すことができたのかどうかはまだ分かりませんが、年次大会の原点としての知的なお祭りとしてのワクワク感をどう用意できるか、大会当日まで全力で努力いたすつもりです。研究の現場で日夜実験に励んでいらっしゃる若い皆さんも、研究から教育、管理運営までご多忙なシニアの皆さんも、この4日間はラボやオフィスを飛び出してください。会員の皆さんも、現在はどちらの学会にも入られていない方もこれを機会に学会に参加いただき、人と人とのオープンな交流の中で、合同年次大会を楽しんでいたければと思っております。

それでは、12月に皆さまと神戸でお目にかかれることを楽しみにしています。サイエンスワンダーランドのBMB2015、どうぞ奮ってご参加下さい。